



やらまいか

クラブテーマ：スマイルロータリー、新時代へ進化

会長／太田 稔 幹事／池田 弘 会報委員会／乙部享祐・杉浦和人・原田浩史

例会会場／毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所 事務局／豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内

TEL 0533-86-2535 Fax 0533-86-8889 HP: <http://toyokawahoi.tank.jp/>

本年度第10回 通算1731回 2023年10月3日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	9/12 修正出席率
		72名	44名	70.9%	83.6%

ゲスト：地区米山奨学副委員長 高木優州さん(愛知三州) ビジター：大石佳史さん(豊橋北)

★会長あいさつ

太田稔会長



皆さん、こんにちは。すっかり秋らしくなってきました。昼間と夜の寒暖差が激しいので、体調には気を付けて頂きた

いと思います。

秋晴れの中、昨日、私と池田幹事、林さん、来山さんの4名で、蒲郡RC創立70周年記念ゴルフ大会に参加してきました。プロキャディの杉澤伸章さんが、各組の2ホールずつにキャディとして付いて回ってくれました。色々とおアドバイスをしてくれました。杉澤さんは、丸山プロと一緒にアメリカでキャディをされていた方だそうです。今は解説などをされているそうです。

一緒に回った時に1つ教えて頂きました。自分が打ち出す近くを標的にして打って下さいとアドバイスをしてもらいました。同じ組の池田幹事は、とても褒められていました。こんなに綺麗なアプローチをする人はいないぐらいなことを言われて、ちょっと調子に乗って後半崩れていました(笑)。

杉澤さんは蒲郡の出身の方で、表彰式後に卓話がありました。その中で「言葉の力」のお話がありました。その人に合った言葉の力が大事である。今プ

レーしている選手の気持ちや感情を見極めて、言葉をかけることをされていたそうです。過去と一緒に回ったタイガーウッズ選手のキャディが、ピンまで175ヤード、エッジまで150ヤードのところ、タイガーウッズ選手が何ヤードあるのか聞かれた時に、150ヤードといい、もう一度聞かれた時にも150ヤードと答えました。それを聞いたタイガーウッズが“フブ”って笑って打ったら、150で落ちて175まで転がってピタッと止まったそうです。そして杉澤さんも丸山プロに同じことを言ったら、本当の距離を言えと怒ったというエピソードも紹介してくれました。常に選手の事を見ながら、言葉を選んでアドバイスをしたというお話でした。私たちの普段の生活でも、相手の気持ちを思いながら言葉を使うようにしたい思います。

今日は、米山奨学月間ということで、地区の米山奨学委員会の副委員長に卓話をして頂きます。どうぞよろしくお願い致します。

★幹事報告

池田弘幹事

例会臨時変更のお知らせ
次回例会のお知らせ
台中松竹RCからの会報の回覧

★委員会報告

近藤利行会員
父の葬儀会葬の御礼あいさつ
雑誌広報委員会 近藤利行委員長
ロータリーの友10月号の紹介

★米山奨学委員会担当例会

委員長あいさつ



5年ほど前にロータリー会員になられています。地区米山奨学委員会4年前から出向されています。高木様、本日は宜しくお願ひします。

大木悦子委員長

こんにちは。今日の講師の方を紹介させていただきます。地区米山奨学委員会副委員長の高木優州さんです。愛知三州RCのチャーターメンバーとし

卓話「米山記念奨学事業について」



3,250万円のご寄付を頂いております。本当にありがとうございます。

私は、地区米山記念奨学委員会の副委員長で愛知三州RCから出向しております。

本日は、米山記念奨学事業についてお話をさせていただきます。将来、日本と世界を結ぶ懸け橋になって、国際社会で活躍し、ロータリー活動のよき理解者となる人材を育成すること、それによって世界平和、相互理解を深めていくことがこの事業の大きな目的です。特徴としては、日本のロータリークラブがつくった独自の事業です。日本で学ぶ外国人留学生を支援しています。世話クラブ・カウンセラー制度があります。そして民間最大の国際奨学事業です。事業費は14億4千万円です。これまで輩出してきた奨学生は、23,509名です。本年度は、新規・継続と合わせて900名の奨学生がいます。出身国は、世界131の国と地域になります。特にアジアの地域を中心として支援をしています。

米山記念奨学事業の事業名は、日本のロータリーの父と呼ばれている米山梅吉さんに由来します。でも米山梅吉さんの財産で作られたものではありません。

米山梅吉は、ロータリーの創立者のポールハリスと同じ年に1868年に生まれています。米山梅吉は、アメリカへの使節団として滞在中に、ダラスRCの会員だった福島喜三さんと会って、その後の1920年に日本で最初の東京RCを創立しました。それで日本のロータリーの父と呼ばれています。

米山梅吉は、青山学院の初代委員長の本多庸一の影響を強く受けています。本多庸一が、キリスト教のメソジスト派に属していたこともあり、米山梅吉はメソジストカレッジがあるオハイオ州のウェスリアン大学で学びました。そこで、メソジスト派の指導者であるジョン・ウェスレーの教えを受けています。ジョン・ウェスレーの「Gain all you can, Save all you can, but Give all you can出来るだけ儲けよ、出来るだけ蓄えよ、しかし、出来る限り与えよ」の教えを米山梅吉は実践しました。米山梅吉は、晩年、資材を投じて小学校を作りました。幼稚園も作りました。ですので、米山梅吉には遺産がありませんでした。教員の給与を支払うために、夫人の着物を質に入れるために質や通いをしていました。ジョン・ウェスレーの教えを守り、本多庸一の恩に報いるための恩義な人でした。

米山梅吉は、日本で初めての信託会社、三井信託(株)を設立しました。晩年は三井報恩会を通じて、ハンセン病や結核の患者を支援する助成事業を行うなど、人生を通じて常に奉仕に情熱を傾けてすべてを捧げる人でした。

終戦後の1946年に米山梅吉が亡くなります。その後に米山梅吉の功績を讃え、後世まで残る有益な事業を行いたいとの声が上がリ、1952年に東京RCから米山基金構想が発表されました。その時発表したのが、東京RCの古澤丈作会長です。その時にこのように発表しています。「これ実に米山の生前意図されたロータリー事業の一つであり、我らはまたもって米山の遺徳を讃うる無形の金字塔となさんとするものであります」と発表されました。米山梅吉が若き日に大志を抱いてアメリカに留学し、実業家として大成してからは、向学心に燃える多くの青年に陰ながら援助の手を差し伸べ、晩年には私財を投げ打って児童教育に力を注ぎました。この奨学事業こそが米山梅吉の遺志を継ぎ、その功績を永く顕彰するのにふさわしいと考えたのだと思います。その後、この構想が承認され、最初の留学生、タイ出身のソムチャートさん25歳が日本に来日しました。

最初は、初めてな事だったので全て自分たちで行いました。奨学生の選定は、海外のロータリークラ

ブに依頼をしました。船で来られるということで船の手配、ビザの申請や寄付金集め、日本語教育を受けてなかったのが、環境を整えることや受け入れる大学、宿舎を探すことなど駆け回ったとのこと。この大変だった経験から、今では日本で学ぶ留学生を中心に支援を行うという形に変わりました。

ソムチャートさんは、農学部出身ということで、研究生として東京大学に受け入れて頂いて、その後大学院修士課程の受験をして入学したそうです。

東京 RC の古澤さんは、活動中に病気で倒れてしまって、ソムチャートさんの事が心配で心配で何度も何度も手紙を送っていたようです。残念ながら、ソムチャートさんの行く末を見届けることは出来ずに生涯を終えました。この古澤丈作さんの想いを継いで、時代に翻弄されながらも、1967年に財団法人ロータリー米山記念奨学会を設立、そして、この事業の肝である世話クラブ・カウンセラー制度が整えられていき、ロータリアンの強いリーダーシップによって70年も続く奨学事業として成長をしています。その努力によって、今では2万人を超える奨学生を送り出しています。奨学生は、恩義の人として、自分の使命を胸に活躍をしています。

東京 RC から始まって、日本全国の RC の協力を得ながら、日本で学ぶ留学生を支援しています。世話クラブ・カウンセラー制度で交流のもとに人を育てていく良い事業に変わっていききました。

この事業の成果を知るには、米山奨学会を巣立った学生の活躍がどんなものなのか知る必要があります。巣立った奨学生のOB組織は米山学友会です。日本に33あります。海外には10あります。今年の5月にベトナムで新たに承認されたベトナム南米山学友会があります。これだけの学友会が活動を通じて日本を大切に考え、各学友会で思い思いの懸け橋となる奉仕活動を行っています。この活動は、日本のロータリアンにとって大変誇りに思うことです。

海外の学友会の台湾・韓国・ネパール・ベトナムの活動を簡単に紹介します。台湾の学友会は、台湾に留学する日本人の若者に対して奨学金を支援することを15年も続けています。累積53名の日本人を支援してくれました。海外留学を考えている台湾の学生にも、米山の事業を紹介して日本への留学を勧めています。韓国の学友会でも同じように日本人の若者を支援してくれています。これまでに42名を支援してくれました。ネパールの学友会では、2015年のネパールの大震災で日本から寄付された義援金を原資としてネパールの国内で、貧しい子どもたち

に教育支援をしています。ベトナム・ホーチミンの学友会は、今回の承認前の2015年から地道に活動をしていました。今後、更に拡大していくと期待をしています。各学友会は、それぞれ親睦を深めて、自主的に社会奉仕活動をして、ロータリー活動にも協力をしてくれています。

米山学友会の世界大会は、国内外の学友会が持ち回りで主催をしています。今年はずくばで開催されました。関東10地区の米山学友会による共同開催でした。学友会の他、現役の米山奨学生、ロータリアンが日本国内外から1200名を超える登録で大会が大いに盛り上がったようです。実際に参加をしたロータリアンは、その熱気を肌で感じ、行って良かった、やってきた活動は良い事だったと実感して帰ってこられたと聞いています。次回は3年後に台湾で、ロータリーの国際大会に合わせて開催されます。是非、皆様もご参加頂ければと思います。

ご紹介したように国内外で活発に米山奨学生が活動を行っています。この活動の原動力となっているのは、何なのか、2020年6月に発行された学友会特集号の中から少し紹介させていただきます。台湾学友会「米山という名が心に刻まれ、温かな印となり、日本留学中にお世話になったことを思い出すたび、ご恩をお返ししたくなります。私たち台湾の米山学友は、社会奉仕の価値と意義を感じながら、楽しく活動しています。」。続いてタイ学友会「米山学友会は、ロータリーの財産です。世界中にこの大きな財産があることを日本のロータリアンには知ってもらいたい。」。ミャンマー学友会「私たちは皆、米山記念奨学金のおかげで勉学に集中でき、人生の選択肢を広げることができました。けれども、奨学金をもらった本当の価値とは、米山学友になり、日本のロータリアンと一緒に社会奉仕活動ができ、社会貢献ができることだと思います。」と彼らからは強い恩義を感じます。モンゴル学友会では「自国の社会問題を他人ごとにはせず、高い心差しを持っています。米山奨学金の価値を一人一人が認識をし、恩返しの気持ちを育てる元気な学友会にしていきたい。」

2009年に中国学友設立の時の初代会長のスピーチを紹介します。「それではなぜ、我々はここに来たのでしょうか。なぜ、この会を設立するのでしょうか。私はその答えを、いまこの壇上で、皆を代表して回答しなければならないと思います。なぜ、今日ここに集まるのか。その第一は、その原点は、米山奨学会への感謝の気持ちを持って皆来ているのではないかと、私は思います。これが第一です。次に、

なぜ来るのか。皆さんは感謝だけではなく、どのように恩返しをしようかと考えていると思います。中国には次のようなことわざがあります。「たとえ一滴の水でも受けた恩義は、湧き泉として報いるべき」と。これは中国人にとって忘れないことです。では、どういう風に恩返しをするか。私の世話クラブのロータリアンは私にこう言いました。「その恩義を我々に返すのではなく、次の若い世代に伝えてくだされば、それが我々にとって恩返しです」。その言葉を受けて私は非常に感動しました。我々は、米山奨学金がなかったならば、今、私はこの立っている私ではない。皆さんは、今そこに座っている皆さんではない。この奨学金をいただいて、我々は夢を持ちました。夢を実現する力をいただきました。この頂いたお金だけではなく、恩義を、どのように次の世代に伝えるかどうかが、我々の使命ではないかと私は思います。」

学友の心にあるものは、世話クラブ・カウンセラー制度を通じて、奨学生が得られた多くの事に感謝し、その恩を返すこと。彼らは感謝の気持ちを忘れずに奉仕活動で日本と母国を繋げる懸け橋として恩義を返すために学友活動をし続けています。この日本ロータリーが誇る米山奨学事業は、感謝の心を作り、未来へ続く、学友活動の源泉です。そして、その活動の連鎖が世界平和、国際理解の役割を徐々に果たしていくなど考えます。この事業の本質は、ロータリアンと奨学生の関りから感謝の心を作り、恩を返す活動へと循環を作っていくことです。この事業がいかに尊いか少しでもご理解頂けたと思います。

学友からロータリアンになった人は、これまでに292名です。今年度もその方々の中からクラブの会長が2名誕生しています。ガバナーになった方、学友が作ったクラブなど、それぞれに活動や思いを繋げてくれています。恩返しの気持ちでコツコツと寄付をされている方、何か日本にあった時に寄付をしてきてる方、遺言寄付など、それぞれ恩を返す気持ちを大切に進めてくれています。

この事業は、皆さんのご協力により70年継続することが出来ています。一緒になって活動する中で、その本質に触れ、何か温かいものを感じて頂けたと思います。世話クラブ・カウンセラー制度のもとでお互いに同じ時間を過ごし、奨学生を応援し、その後の活動を知って、我々は勇気づけられ、事業への想いが大切なものとなっていく。これこそが成果であり、その想いがあり続けられれば、この事業の使命を果たすことが出来ていくと思います。

どうか米山事業の本質を理解して頂き、今後ともご支援を頂きますよう宜しくお願いします。ご清聴ありがとうございました。

★ニコニコボックス

高木優州様 本日はよろしくお願ひ致します。
 大石佳史様 //

石黒貴也会員 大石君の来訪を歓迎して
 大木悦子会員 本日の例会を担当します
 林 博宣会員 同好会コンペで優勝して
 近藤利行会員 父の葬儀の会葬御礼
 池田 弘会員 誕生日を祝って頂き
 太田 稔会員 //
 鈴木 忍会員 //
 山本章吾会員 //

太田 稔会員 誕生日と結婚記念日を祝って頂き
 井澤秀明会員 結婚記念日を祝って頂き
 小野喜明会員 //
 滝下 勲会員 結婚記念日と創業を祝って頂き
 柴田陽一会員 事業所創業を祝って頂き
 樫山修一会員 //
 坂口幹夫会員 //
 土井昌司会員 入会記念日を祝って頂き
 杉浦和人会員 //
 ゴルフ同好会 コンペのニコボックス

★ゴルフ同好会コンペ

9月20日に第1回同好会コンペが平尾CCで開催され14名の会員が参加しました。

コンペ成績		GROSS	HDCP	NET
優勝	林 博宣	92	19	73
準優勝	太田 稔	89	15	74
3位	池田 弘	85	11	74
ニアピン	田中健司、来山健一、池田 弘②			
ドラコン	高桑 耐、吉田 悟、浅野 晋②			



会報担当：乙部享祐・杉浦和人・原田浩史